

引書からみた五經正義の成り立ち

——所引の緯書を通して——

野 間 文 史

一 はじめに

清末の經學者皮錫瑞の『經學歷史』には、唐初に撰定された『五經正義』に対する次のような指摘がある。

孔疏の欠点を論議する者が以下のように述べている。

- 一つ、彼此互異（五經正義中における主張の相異）
- 一つ、曲徇注文（真理を曲げてまで注を墨守する）
- 一つ、雜引讖緯（經書解釈に讖緯の書を雜え引く）

考えるに、注疏の著書の通例としては、注文は經文を、疏文は注文を駁さないし、異義を取らず専ら一家の解釈を

宗とするのであるから、「曲徇注文」は欠点とするには及ばない。また讖緯の書は古義を存することが多く、その原

文は今文であり、これを雜え引いて經文を解釈するのであるから、これもまた大きな欠点とはいえぬ。しかし「彼此互異」という点に関しては、學者は従うべき所がわからず、既に刊定の規準を失い、殊に統一の名義に乖くものである。たとえば讖緯の説を例にとると、注疏はともに讖緯を引用するが、『詩』『礼』は鄭玄に従うので是とみなし、『書』は鄭玄に従わないので非とみなしている。結局のところ讖緯は是であるのか非であるのか。これは矛盾の甚だしいものではないか。

このように述べた後で皮氏は、『五經正義』編纂に従事した學者の数が多く、『五經』のそれぞれを分担して各自で底本

を撰択したためにかかる不統一を残すことになったもので、名は創定（はじめてつくる）だが実は因仍（よりしたがう）であると結論している（経学統一時代）。

皮氏の主張はおおむね妥当であると考えられるが、本稿では『五経正義』が所引の讖緯の書に対していかなる評価を下しているかということをも更に詳しく検討することによって、『五経正義』の性格の一端を考察しようとするものである。

二 尚書正義所引の緯書

さて「雑引讖緯」と非難される『五経正義』ではあるが、皮氏がすでに指摘するように、『尚書正義』は緯書に対して否定的評価を下していることを特徴とする。そこで先ず『尚書正義』所引のものから検討を始めた。

『尚書正義』に引用された緯書の数は凡て二七例^③、全体の引用書籍の中ではそれほど多い方ではないが、これらのうちで、緯書が前漢末の哀帝・平帝時代に偽作されたものだと明言している以下の数例が注目される。

引書からみた五経正義の成り立ち——所引の緯書を通して——

（野間）

九二

○ 其緯文鄙近、不出聖人。前賢共疑、有所不取。通人考正、偽起哀平。則孔君之時、未有此緯。何可引以為難乎。（卷一・二葉裏 嘉慶二十年刊阮刻本による。以下同様）——書①

○ 緯候之書乃称「有黄龍玄龜白魚赤雀負図銜書以授聖人」。正典無其事也。漢自哀平之間、緯候始起。仮託鬼神、妄称祥瑞。孔時未有其說。縱使時已有之、亦非孔所信也。（卷八・二六葉表）——書②

○ 緯候之書言「受命者謂有黄龍玄龜白魚赤雀負図銜書以命人主」。其言起於漢哀平之世、經典無文焉。孔時未有此說。（卷十一・一葉裏）——書③

○ 中候及諸緯多說黄帝堯舜禹湯文武受図書之事、皆云「龍負図、龜負書」。緯候之書不知誰作。通人討覈、謂偽起哀平。（卷十二・三葉裏）——書④

このように緯書の成立を前漢の哀平期と確言する例は、他の『正義』には全く見られないものである。

引書からみた五經正義の成り立ち——所引の緯書を通して——

(野間)

三

そして緯書の史料の価値を打ち消す例がある。

○ 天道左旋、日体右行、故星見之方、与四時相逆。春則

南方見、夏則東方見、秋則北方見、冬則西方見。此則

勢自当然。而書緯為文生說、言「春夏相与交、秋冬相

与互、謂之母成子、子助母」、斯假妄之談耳。(卷二・

一五葉裏・一六葉表)

書⑥

○ 將以子不肖、時無聖者、乃運值汚隆、非聖有優劣。而

緯候之書附会其事、乃云「河洛之符、名字之録」。何

其妄且俗也。(卷二・二六葉裏)

書⑥

『尚書正義』の緯書に対するこのような姿勢は、『尚書正

義』の依拠した『尚書』の注が(偽)孔安国伝であることに

よるものであって、そこには緯書説を多く採用する鄭玄注に

対抗しようとする意志が強く働いているのである。

したがって『尚書正義』には、緯書説に立脚した鄭玄の主

張を反駁する例が多い。いま二例挙げてみよう(他に卷一の

五葉表・九葉裏・卷二の一五葉裏など)。

○ 鄭玄依書緯、以尚字是孔子所加。故書贊曰「孔子乃尊

而命之曰尚書。璿璣鈴云、因而謂之書、加尚以尊

之」。又曰「書務以天言之」。鄭玄溺於書緯之說、何

有人言而須繫之於天乎。(卷一・一二葉表)——書⑦

○ 歷數謂天歷運之數。帝王易姓而興、故言「歷數謂天

道」。鄭玄以「歷數在汝身」謂有凶籙之名。孔無識緯

之說、義必不然。当以大功既立、衆望歸之、即是「天

道在身」(卷四・十葉表)

書⑧

それでは緯書の所説と孔安国伝の主張とが一致する場合に

は、『尚書正義』はいかに対処するであろうか。

○ 經 月之從星、則以風雨。伝 月經於箕則多風。離於畢

則多雨。正義曰、詩云「月離于畢、俾滂沱矣」是「離畢

則多雨」、其文見於經。「經箕則多風」伝記無其事。

鄭玄引春秋緯云「月離於箕則風揚沙」。作緯在孔君之

後、以前必有此説、孔依用之也。(卷一二・二四葉

裏)

書⑨

とあるのがすなわちその例で、鄭玄が安易に『春秋緯』に根拠を求めるとして、『正義』は、古書にそのような説が既にあったはずで、孔伝はそれに基づいたものであり、これが緯書説とたまたま符合したに過ぎない、と見なすのである。同様な主張が前に引用した書④にも、続けて「雖復前漢之末始有此書、以前學者必相伝此説」と見えている。

もっとも『尚書正義』所引の緯書のすべてが否定されているわけではなく、論証の過程に史料として利用する例も見られる。しかしそれらも鄭玄との関連においてのものが少なくない。いま二例ほど挙げよう。

○ 此序鄭玄馬融王肅並云孔子所作。孔義或然。……鄭知孔子作者、依緯文而知也。(卷二・四葉表)——書⑩

○ 鄭玄云「周時齊桓公塞之、同為一河。今河間弓高以東、至平原鬲津、往往有其遺處」。春秋緯寶乾図云「移河為界在齊呂、填闕八流以自広」。鄭玄蓋拋此文為齊桓公塞之也。(卷六・七葉裏)——書⑪

引書からみた五經正義の成り立ち——所引の緯書を通して——

以上の考察からすれば、『尚書正義』において緯書は低い評価しか与えられていないことが明らかとなるであろう。そこで以下順次、他の『正義』の検討に移るべきであるが、その前に『五經正義』成立の事情とその性格・体裁について略述しておきたい。そのことによつて、『尚書正義』の緯書に対する評価の意味もさらに明確となり、また冒頭で引用した皮氏の論旨もより判然とするであろう。

三 五經正義の体裁

唐の太宗は当時の儒学が多門であつて、經書の章句が煩雜であることを憂え、国子祭酒の孔穎達に命じて『五經』の義疏を撰定せしめた。凡て一百八十卷。この書は最初、『五經義贊』と名づけられたが、後に『五經正義』と改名された。「正義」とは「正確なる意義」の意であることは勿論だが、その実態は「正当なる義疏」といった方がより適當であろう。なぜならば『五經正義』は『五經』の本文を直接に解釈するという方法は取らず、先ず『五經』に対する最良の「注釈」

(野間)

引書からみた五経正義の成り立ち——所引の緯書を通して——

を選択し、さらにこの「注釈」を再注釈した書の中から最良のものを選定し、これを基本としてその不備を次善のもので補うという形を取ったからである。これら再注釈の書は「義疏」と呼ばれ、六朝時代には数多く著作された。当時の仏典の講釈法を経学に応用したものだともいわれる。

さて『正義』の一般的な体裁は、まず「経」あるいは「伝」の本文を、選定した「注」に基づいて忠実に詳細な解釈を施す。これがその第一段階である。したがって、先に述べた「正確なる意義」の意であるならば、これで既に充分なはずであらう。しかし『正義』は更に、選定した「注」がいかに妥当な注釈であるかを逐一論証していくのである。そして『正義』の本預は実にこの部分に存するといってもよい。とりわけ選定されたもの以外の有力な「注」（『周易』『尚書』の鄭玄注、『毛詩』『礼記』の王肅注、『左伝』の服虔注など）とその解釈が相対立するとき、正義は全力をあげて選定した「注」の正しさを論証するわけで、その考証は複雑となり、

（野間）

引用する文献も多岐にわたる。これがその第二段階である。

第三段階は、選定した「注」の解釈に二通り以上の異説が存在する場合（たとえば『礼記正義』の皇侃と鄭玄）、あるいは「注」の中での矛盾・経書間の矛盾等の調停である。

そして第二段階にせよ第三段階にせよ、その解釈の妥当性はその証拠としての先行文献の有無に求められることが極めて多い。それは『五経正義』中に「未知出何書也」「無文可拋」「無正文」「無明文」「不知出何書」「未知所出」「文無所出」「文無所拋」「不知本出何書」「不知何所拋也」「無文可馮」「無所案拋」等の表現が瀕見することからも伺えるであらう。何よりも抛り所となるべき文献が重要視されるのである。そして最も權威ある文献とは何かといえば、それは他ならぬ経書であり、次いで伝文であり記文であって、史書・子書はあくまでも補助的な意味しか持たない。それは『五経正義』の引用書とその数を瞥見すれば明瞭で、経書の引用が圧倒的に多いのである^⑧。

六四

そうだとすれば、前節で引用した『尚書正義』の例に、緯書の所説に対して「正典無其事也」書②・「經典無文焉」書③・「伝記無其事」書④という表現が見られることは、『尚書正義』の緯書への評価の低さを示すものだといえよう。たとえ緯書を肯定的に史料として引用する場合にも、史書・子書と同等なのである。

四 礼記正義所引の緯書

緯書に否定的な『尚書正義』と対照的なのが『礼記正義』である。所引の緯書は凡て二〇三例、『五経正義』中で最も多い。しかもこれらのほとんどが肯定的に利用されているのである。たとえば何休の『穀梁廢疾』を承けた鄭玄の『釈穀梁廢疾』を引用した後で、

○ 如鄭此言、三時之田不敢顯露、陰書於緯。四時之田顯然在春秋之經。穀梁為伝之時、去孔子既近、不見所蔽

之緯。唯觀春秋見經、故以為四時田也。公羊當六国之

時、去孔子既遠。緯書見行於世、公羊既見緯文、故以

引書からみた五経正義の成り立ち——所引の緯書を通して——

為三時田。(卷一二・六葉裏) —— 記①

と述べる記載は、鄭玄が緯書を孔子の著作と見なす説をそのまま容認するかのようである。また次に掲げる一例は緯書を是として『礼記』月令の經文をも否定するものである。

○ 月令 止声色、母或進。

鄭注 進猶御見也。声謂樂也。易及樂・春秋説、夏至

人主与群臣從八能之士作樂五日。今止之非其道也。

正義 「作樂五日」者、謂日至之前豫前五日、令八能之士習作其樂以迎日至。樂緯協圖徵亦云「從八能之士」。今月令於日至「止声色」、与諸緯文違。故云「非其道」。必知其緯文「作樂」為是者、周礼大司樂「冬至祭圜丘、夏至祭地方沢」皆有「作樂」之文、不得云「止樂」。故知月令非也。(卷一六・七葉

表) —— 記②

これは緯書を根拠として「月令」の記載を誤りだと断定する

鄭玄説を、『正義』が補強しているものである。また、

(野間)

引書からみた五經正義の成り立ち——所引の緯書を通して——

(野間)

矣

○ 按通卦驗云「倉庚為正月中」、与此不同者、蓋是国土

で、緯書に対する否定的表現は次の三例のみである。

各異、氣有早晚。(卷一五・二葉裏)——記③

○ 但伏羲之前及伏羲之後、年代參差、所說不一。緯候紛

とあるのは、『易緯』と經文との相違を地域差に帰すること
によって、両者の相違を調停しようとしたものであり、ある

紼、各相乖背、且復煩而無用。今並略之。(卷一・一
葉裏)——記⑥

いはまた、「檀弓」下篇の「含玉」についての、

○ 又礼緯含文嘉云「殷爵三等。殷正尚白、白者兼正中、

○ 卿大夫無文。案成十七年「公孫嬰齊夢贈瓊瑰」注云

故三等。夏尚黑、亦從三等」。按孝經夏制而云「公侯

「食珠玉含象」、則卿大夫蓋用珠也。案士喪礼「貝三実

伯子男」、是不為三等也。含文嘉之文又不可用也。

于筭」注云「貝水物。古者以為貨。江水出焉。筭竹器

(卷一一・五葉裏)——記⑦

名」、是士用貝三。依雜記則大夫当五、諸侯七、天子

○ 云「百舌鳥」者、蔡云「虫名鼃也。今謂之蝦蟇。其舌本

九。何休注公羊云「天子以珠、諸侯以玉、大夫以碧、

前著口側而未嚮內。故謂之反舌。通卦驗曰、搏勞鳴、

士以貝」。又礼緯稽命徵「天子飯以珠、含以玉。諸侯

蝦蟇無声」。又糜信云……。螭凤答曰「……今人識

飯以珠、含以璧。卿大夫飯以珠、含以貝」。此等或是

之。故不從緯与俗儒也。(卷一六・二葉表)——記⑧

異代礼、非周法也。(卷九・一二葉表)——記④

もっともこのうちの記⑦は、鄭玄説とは異なるところの

とある記載は、『左伝』『儀礼』『礼記』と相違する『礼緯』

『易緯』に基づいた蔡邕説を否定したものにすぎない。

の記述を、時代差によるものとして調停したものである。

以上のことからすると、『礼記正義』の緯書に対する基本

そして寡見の及ぶところ、『礼記正義』所引の二〇三例中

的態度はほとんどが肯定的なものだといえるであろう。ただ

し鄭玄が緯書を否定する場合は『正義』は鄭玄説を支持する。

五 春秋正義所引の緯書

『隋書』経籍志の緯書の項に次のような記載がある。

宋均・鄭玄並為讖律之注。然其文辞淺俗、顛倒舛謬、不類聖人之旨。相伝疑世人造為之後、或者又加點竄、非其実録也。起王莽好符命、光武以凶讖興、遂盛行於世。……言五經者、皆憑讖為説。唯孔安國・毛公・王瓚・賈逵之徒獨非之、相承以為妖妄、乱中庸之典。……魏代王肅推引古學、以難其義。王弼・杜預從而明之、自是古學稍立。

この記事に依れば、前二節で考察した『尚書正義』と『礼記正義』の緯書に対する異なった評価は、実はそのまま孔安國と鄭玄の緯書に対する態度と一致することが明らかとなる。これは『五經正義』が「注釈」を再注釈した「義疏」を下敷にしたということから必然的に出てくる結果なのである。そうだとすれば、残る三經の『正義』の緯書の評価も、自ずから予想がつくところであろう。そこで本節では、次いで『春秋正義』について検討してみよう。

引書からみた五經正義の成り立ち——所引の緯書を通して——

(野間)

七

引書からみた五經正義の成り立ち——所引の緯書を通して——

(野間)

六

『春秋正義』所引の緯書の数は凡て三一例、極めて少ないといふべきである。そしてこれらのうち、鄭玄との関連から緯書を引用するものかなりある。いま一例を挙げよう。

用璧」。此声伯得有瓊瑰者、案周礼「天子舍用玉」、則礼緯之文未可全依。或可珠玉兼有。故釈例云「珠玉曰含」。 (卷二八・二三葉表) 春②

○ 鄭玄注書多用讖緯、言「天神有六、地祇有二。天有天皇大帝、又有五方之帝。地有崑崙之山神、又有神州之神。……」。唯鄭玄立此為義。而先儒悉不然。故王肅作聖証論、引群書以証之、言「郊則圜丘、圜丘則郊。

では、記④が「礼緯」を異代の制度だとしていわば折衷的態度をとるのは異なり、これを否定するものである。ちなみに「儀礼疏」(卷三五・一五葉裏)・「穀梁疏」(卷一・六葉裏)は「礼記正義」の論旨に近い。

天体唯一、安得有六天也」。晋武帝王肅之外孫也。泰始之初、定南北郊、祭一地一天、用王肅之義。杜君身処晋朝、共遵王說。集解・釈例都不言有二天。(卷六・一三葉裏) 春①

これからすると、基本的には『春秋正義』の緯書に対する評価は『尚書正義』のそれと同じとみなしてよいであろう。

ところで、二節で引用した書①の前文には、「若然尚書緯及孝経緯皆云、三皇無文字。又班固・馬融・鄭玄・王肅諸儒皆以為文籍初自五帝、亦云、三皇未有文字。与此說(孔安国)不同何也」という一節が有るのであるが、『春秋正義』には「三皇に文字が有ったか否か」ということについては、孔安国『尚書』序を引用した後に、

また四節所引の記④と同じ「含玉」について論じた例、
○ 含者或用玉或用珠、故夢食珠玉為含象也。詩毛伝云「瓊瑰石而次玉」。礼緯「天子舍用珠。諸侯用玉。大夫

楚左史倚相「能說三墳五典八索九丘」即謂上世帝王遺書也。周礼外史「掌三皇五帝之書」鄭玄云「楚靈王所謂三墳五典」是也。賈逵云「三墳三王之書。五典五帝

之典。八索八王之法。九丘九州亡国之戒。……」。此諸家者各以意言、皆無正驗、杜所不信、故云「皆古書名」。 (卷四五・三七葉表) ———— 春③

という記載があるだけで、ここには緯書の引用が全くないことが注目される。というのも、同じ問題を論じた『周礼疏』(巻二六・二六葉表)と比較対照してみると、ここには他の引用書がほぼ春③と一致するうえに、書①と同様『孝経緯』も引用されているからである。

これと同様な例は他にも二例見出される。すなわち「商」・「商丘」を論じた「商頌譜」正義(巻二三之三・一葉)では『中候握河紀』『契握』『孝経授神契』等を引用して論証するのに対して、『春秋正義』(巻三十・二四葉)には緯書の引用が全くない。また「詩譜序」正義(五葉)の「五霸」・「五伯」について論じた箇所には「中候霸免」注(巻五之三・六葉表にも引用する)が引かれているが、『春秋正義』(巻二五・一五葉表)では、共通する引用書と、鄭玄の語を

挙げるにも拘らず、これが『中候霸免』注であることを明言していないのである。これは『春秋正義』が緯書を意識的に無視したのではないかとさえ想像させるほどである。

『春秋正義』における緯書の資料としての評価は、その引用数の少なさが物語るように、極めて低いものといわざるを得ない。それは『春秋正義』の拠った杜預の『春秋経伝集解』が緯書に冷淡であることがその一因であることはいまでもないが、私はさらにこれが『春秋正義』の底本である隋の劉炫『春秋述議』の考え方に基づくものではないかと予想するのである。

『春秋正義』が『春秋述議』を基本にして、その不備を陳の沈文阿『春秋左氏経伝義略』で補ったものであることは、その序の述べるところである。その沈氏で補ったと思われる一例として、僖公十九年伝「司馬子魚曰、古者六畜不相為用」(注：司馬子魚公子目夷也。六畜不相為用、謂若祭馬先不用馬)の「正義」が挙げられるが、その後半に、

引書からみた五經正義の成り立ち——所引の緯書を通して——

(野間)

100

○ 周礼校人「春祭馬祖」。鄭玄云「馬祖天馬也。孝經說

の予想をある程度裏付けるであろう。

曰房爲龍馬」。六畜之言先祖者唯此一文而已。以外牛

六 毛詩正義所引の緯書

羊之等、其祖不知爲何神也。「謂若祭馬先用馬」、

『毛詩正義』の緯書に対する態度は、他の『正義』といさ

略拳一隅、拋有文者言之耳。沈氏云「春秋說、天苑主

さか趣を異にするはずである。なぜなら前引の『隋書』經籍

牛。又有天鷄天狗天豕。以馬祖類之、此等各有其祖」。

志によれば、『毛伝』は緯書を認めず、『鄭箋』はこれを大

(卷一四・二二葉裏)

春④

いに活用しているからである。

とある。ここに「劉炫」の語は見えないが、文章は「沈氏」の前で一応完結していることは明らかである。おそらく前半は劉炫説であり、沈氏が『春秋緯』に根拠を求めたのに対し、劉炫は沈氏『義略』の所説を検討した上で、これを無視したのであろう。緯書を評価する唐時代人が再び沈氏説で補足したのである。

『春秋正義』中の緯書のすべてが沈文阿所引とは言えない

結論からいえば、『毛詩正義』は両者の対立を調停しよう

までも、沈氏によると思われるものが、この他に二例(卷二の二葉裏・卷三の二六葉裏)あり、これに対し、劉炫によって否定された緯書説が一例(卷二・七葉表)あることも、右

と努力する事なく、そのままそれぞれの立場から敷衍・解釈しているのである。例えば、

○ 毛氏不信讖緯、以天無命鳥生人之理。……以玄鳥至而生焉、記其祈福之時、美其得天之命、故言天命玄鳥使

下生商也。……鄭以中候契握云「……」、殷本紀云

「……」。此文及諸緯候言吞駝生契者多矣。故鄭拋之以

易伝也。(卷二十之三・一六葉裏) ———— 詩①

とあるのがそれである。同様な例として卷十七之一(二葉裏)が挙げられるであろう。

ただ『毛詩正義』には緯書に対する否定的言辭も若干ながら存在する。例えば「但緯候之書、人或不信。故鄭不引之」

(卷十二之二・二葉表)・「緯雖不可尽信、其言主以釈此、

故拋之以為周十月焉」(卷十二之二・三葉表)・「此箋不易

毛伝、蓋以礼緯難信、不拋以為正也」(卷十九之四・一一葉

裏)とあるのがそれである。この点からすれば、『毛詩正義』

は『礼記正義』と同様に見えて、これとは一線を画するところが有るといえるのである。

また緯書の成立年代に関しては、『尚書正義』が漢代の哀

引書からみた五經正義の成り立ち——所引の緯書を通して——

平期の作だと明言していることは既に述べたが、『毛詩正義』にも一例、次のような記載がある。

○ 樂緯動声儀・詩緯含神務・尚書璿璣鈴皆云「三百五篇」

者、漢世毛学不行、三家不見詩序、不知六篇亡失、謂

其唯有三百五篇。讖緯皆漢世所作、故言三百五耳。

(詩譜序・五葉裏六葉表) ———— 詩②

『五經正義』中(さらに九經疏にまで広げても)、緯書の成立が漢代であると確言するものは、『尚書正義』と実に『毛

詩正義』のこの一例のみである事を考慮に入れるとき、『毛

詩正義』には緯書の史料としての価値に対して、いささか批

判的態度が見られるというべきである。

七 周易正義所引の緯書

本節では残る『周易正義』と、その他の『九經疏』について略述しよう。『周易正義』所引の緯書は凡て一八例、『五

經正義』中で最も少ない。しかも孔穎達『周易正義』序に一

三例が集中しているのが特徴だといえる。そしてそれらはい

(野間)

引書からみた五經正義の成り立ち——所引の緯書を通して——

(野間)

101

ずれも議論を進めていく際に重要な史料として活用されているものばかりである。特に「第五論分上下二篇」では、ほと

んどが『易緯乾鑿度』の文章から成り、最後に「以此言之、則上下二篇文王所定、夫子作緯以釈其義也」と述べて、緯書孔子著作説を支持しているようである。もっとも、その後の「第八論誰加絳字」では『孝経緯』を引用したあとで、「但緯文鄙僞、下可全信」という否定的言辭がある。あるいは『易緯』以外には信を置いていないのかもしれない。

さて以下『九経疏』に移ろう。『周礼疏』『儀礼疏』はいずれも唐の賈公彦の手に成るもので、ともに鄭玄注を根拠とするものであるから、緯書に対してはすべて肯定的である。

『周礼疏』には緯書を孔子の作と明言するものがあるほどである(巻七・二五葉表)。ただ『周礼』『儀礼』の書物の性格にもよると思われるが、緯書の引用数は、『周礼疏』の一六例、『儀礼疏』の一八例で、『儀礼疏』に少ないことが注目される。『儀礼疏』には一例のみ、鄭玄注にしたがって

緯書を否定するものがある(巻四八・三葉表)。

次に『公羊疏』であるが、引用数は凡て一三〇例と極めて多く、何休「解詁」が依ったと思われる緯書の名を逐一挙げてゐる。これは『公羊疏』の成立した時代が、緯書の亡佚する以前の時代であったことを裏書きするかのようである。例えば襄公一六年何休注に引く「礼記玉藻」について、「今礼記玉藻即無此文。唯礼説稽命徴及含文嘉皆云……。而言玉藻誤也。」(巻二十・八葉表)とある記載からすると、右の予想も首肯できるところで、先学の指摘するように、『公羊疏』の成立は六朝時代に求めるべきであろう。

最後に『穀梁疏』であるが、引用数凡て一七例、茫筭注が否定するのにそのまま従った二例(一・一葉裏と巻一一・三葉裏)を除いて、すべてが肯定的である。

八 まとめ

唐宋八大家のひとり歐陽修に「論刪去九経正義中讖緯節子」という論文があり、これは『九経正義』中から不純物た

る緯書を刪去すべきだと主張するもので、冒頭で挙げた皮錫瑞所引の「雜引讖緯」と同じ主旨だといえよう。しかし、これまで検討してきたことから明らかかなように、『五經正義』中、緯書に対する評価は異なるものであった。「雜引讖緯」は『五經正義』すべてには該当しないのである。否定的なものから肯定的なものへと順次挙げるならば、

尚書↓春秋↓毛詩↓周易↓礼記

となる。『毛詩正義』が中間に位置し、その他の『周礼疏』『公羊疏』は『礼記正義』と同等、『儀礼疏』『穀梁疏』は『周易正義』と同列とみなしてよからう。そしてかかる評価の相違は、『五經正義』の選定した「注」が鄭玄の二經の注を除いてすべて異なることからくるものであり、『五經正義』が「曲洵注文」という性格を持つことは既に論述したところから明らかであるが、つまるところ「彼此互異」も「雜引讖緯」も実にこの「曲洵注文」の必然の結果なのである。

そこでさらに私は、緯書への評価が低い三經の『正義』

引書からみた五經正義の成り立ち——引書の緯書を通して——

が、いずれも隋の劉炫の『五經述議』を底本とするものであったことに注目したのである。『周易正義』だけが唐代人の手に成る部分が多いことはその序からも伺えるが、これが緯書に対して肯定的であることを考慮に入れるとき、緯書を無批判に史料として引用しないという姿勢は、実は劉炫の考え方からくるものではないかと予想するのである。このことについては既に五節の『春秋正義』の項の最後にも述べたところである。この考えをさらに『尚書正義』『毛詩正義』にまで及ぼしたい。

劉炫の『五經述議』は亡佚して伝わらないので、それを確認することは甚だ困難であるが、幸い昭和十七年に我が国で発見された『孝經述議』の卷一には、「讖緯之文、信多虛誕。雖不尽是聖言、斯当有承旧説」という一文が見える。これは二節で引用した書⑨の主張と軌を一にするものである。

また卷四（聖治章）では、「鄭玄以緯説經言」と述べて鄭玄の六天説を紹介した後、王肅の言葉を用いて後者を是として

（野間）

引書からみた五経正義の成り立ち——所引の緯書を通して——

(野間)

104

いるが、これは五節所引の春①と全く同じ論旨である。右の仮説の根拠のひとつとして挙げてよいと思う。

注

- ① 胡敬「唐孔穎達五経義疏得失論」(『経義叢鈔』)にも「箴孔氏之失者」として同様の指摘がある。
- ② 以下に「九経疏所引緯書表」を掲げる。
- ③ たとえば『毛詩正義』は引用書籍・人名数が最も多く八七〇〇例であるが、このうち九経に関するものだけで約五三〇〇例、十三経にまで広げると約七四五〇例である。
- ④ 阮刻本では「螭夙問曰」に作るが、『太平御覧』卷九百二十三所引の慶信『礼記難』では「螭夙答曰」に作る。「難」に対する「答」の方が文意が通るので、これに従うべきであろう。
- ⑤ ちなみに皇侃『論語義疏』に緯書の引用は全く無い。

九 経 疏 所 引 緯 書 表

| | 周易 | 尚書 | 毛詩 | 礼記 | 左伝 | 周礼 | 儀礼 | 礼記 | 公羊 | 穀梁 |
|----|----|----|-----|-----|----|-----|----|-----|----|----|
| 河内 | | | 4 | 6 | 1 | 8 | | | | |
| 洛書 | | | | 1 | 1 | | | | | |
| 易緯 | 14 | 6 | 19 | 28 | 3 | 18 | 4 | 2 | | |
| 書緯 | | 10 | 7 | 10 | 1 | 6 | 1 | | | |
| 中候 | | 1 | 4 | 8 | 18 | 3 | 5 | 1 | 1 | |
| 詩緯 | | | 10 | 2 | | | | | | |
| 礼緯 | 2 | 1 | 9 | 24 | 3 | 12 | 4 | 9 | 4 | |
| 棗疏 | | | 3 | 19 | 1 | 3 | | 2 | | |
| 春秋 | 1 | 3 | 22 | 44 | 11 | 28 | 2 | 106 | 10 | |
| 論語 | | 1 | | 3 | | | | | | |
| 孝經 | 1 | 1 | 16 | 44 | 6 | 36 | 5 | 10 | 3 | |
| 緯 | | 4 | 4 | 5 | 1 | | 1 | | | |
| 中候 | | | | | | | | | | |
| 緯 | 18 | 27 | 142 | 204 | 31 | 116 | 18 | 130 | 17 | |

(新居浜工業・高等専門学校)

A Study of The Wujing Zhengyi 五經正義's Estimate
of The Weisyu 緯書

Fumichika Noma

In this paper I attempt to examine how each book of The Jiuqing Syu 九經疏, especially of The Wujing Zhengyi, estimates The Weisyu as material for quotation. Their estimates can be summarized as follows:

1. The Shangsyu Zhengyi 尚書正義 and The Chungiu Zhengyi 春秋正義 do not rate The Weisyu high.
2. The Liji Zhengyi 禮記正義, The Chouyi Zhengyi 周易正義 and all the other books of The Jiuqing Syu but The Maoshi Zhengyi 毛詩正義 depend on The Weisyu.
3. The Maoshi Zhengyi's estimate of The Weisyu is generally high with some exceptions.

4. The Shangsyu Zhengyi's, The Chungiu Zhengyi's, The Maoshi Zhengyi's estimate of The Weisyu are based on Liu Xuan 劉炫's The Wujing Shuyi 五經述議, their original texts.